

トーマス・フリードマン著「グリーン革命 - 温暖化、フラット化、人口過密化する世界 - 」

日本経済新聞出版社 2009年3月19日刊を読む

赤い中国はグリーンな中国になれるか？

1. 中国には 1990 年から何度となく訪れているが、ふりかえてみると、いちばん驚くのは、中国の人々がどんどん自由にしゃべれるようになり、息をするのは逆につらくなっているように見えることだ。
2. そう、いまでは、政府関係者やジャーナリストと、ざっくばらんな話ができる。しかし、2006 年 11 月に上海へ行ったとき、インタビューのためにホテルを出たとき、あたりがあまりにも煙っていたので——刈り入れのあとで畑を焼いたため——ホテルが火事になったのかと、本気で心配した。中国経済は、川や大気に排出する廃棄物や汚染を意に介さないというやり方と低賃金によって、この 30 年間、ほぼ 10 パーセントの成長をつづけている。汚染について質問すると、中国政府や産業界の指導者は、中国が豊かになって汚染を除去できるようになったらきれいにする、と答えたものだった。エネルギー気候紀元に突入したいいま、中国は汚染をきれいにしないかぎり豊かにはなれないと、私は声を大にしていう。赤い中国がグリーンな中国にならなかつたら、共産党指導部は、国民にさかんに約束している生活水準の向上を果たすことはできない。
3. かつて欧米がやってきたように、いま成長し、あとで汚染をなくすという順序でやる余裕は、中国にはない。中国人の多くは、不公平だと思うはずだ。だから、地球温暖化は、欧米が中国の成長を鈍化させるための“陰謀”だと思っている中国人は少なくない。中国の工業の竜が炎や煙を吐きはじめるよりもずっと前に、欧米の工業国家は大量の CO₂ を無頓着に大気に吐き出していたのだから、不公平にはちがいない。ましていま、欧米はもっとも汚い工業を中国に移している。だが、母なる自然は、そもそも公平ではないのだ。母なる自然は、自然科学とごまかしのない数学しか知らない。中国が、いま成長し、あとできれいにしようとしたら、予想を絶する規模と速さの成長によって、環境が取り返しのつかない破壊をこうむるだろう。
4. それがすべて数字に表われている。中国の人口は地球の全人口の約 5 分の 1 だが、世界最大の CO₂ 排出国になっている。石油輸入はアメリカに次いで世界第 2 位である。《タイムズ》(2008 年 1 月 28 日付)によれば、ニッケル、銅、アルミ、鋼鉄、石炭、鉄鉱石について、中国は世界最大の輸入国になったという。木材輸入も今後増えるはずだ。地球は中国と運命共同体であるといっても過言ではないだろう。中国がクリーンパワーや、エネルギーと資源を節約する経済に安定して移行できれば、地球全体の気候変動、エネルギー貧困、石油独裁主義、生物の多様性の喪失を大幅に緩和できるはずだ。中国にそれができなかつたら、地球を救うためにだれがなにをやるう

と、中国の排出と食欲によって帳消しにされ、エネルギー気候紀元は制御不能な方向へとただれ落ちてゆくだろう。だから、私が本書で提起している問題は、じつは重大な二つの疑問に集約される。一つは、「アメリカはほんとうに真のグリーン革命を先導できるのか?」、もう一つは、「中国はほんとうにそれに倣うのか?」という疑問である。あとのことは、ちょっとした注釈にすぎない…。

5 . 中国の名言でそれをいい表わすには、中国経済について鄧小平が述べた、かの有名な言葉「黒い猫であろうと、白い猫であろうと、ネズミを捕るのがよい猫だ」を引き合いに出すのがいいだろう。共産主義のイデオロギーはさておき、中国の成長こそが肝心である、と鄧小平は述べた。いまはそうはいかない。猫がグリーンでなかったら、ネズミはともかく、私たち人間はどうてい生き延びられない。

6 . では、いまの中国はどうなのだろう? 私は、その質問に対するもっとも端的な答を、かつて《ファーイースタン・エコノミック・レビュー》編集人で、いまは《ニールグローバル・オンライン》の編集人をつとめるナヤン・チャンダから聞いた。中国のエネルギーと環境面での行動について意見をきくと、チャンダはすかさず、「<スピード>の DVD を借りて見るといい」と答えた。

7 . 1994 年のこのアクション映画には、キアヌ・リーブス、デニス・ホッパー、サンドラ・ブロックが出演している。キアヌ演じるジャック・トラベン、ロサンゼルス市警の SWAT チーム特別捜査官で、復讐に燃える恐喝者ハワード・ペイン(デニス・ホッパー)がバスに仕掛けた爆弾を撤去しようとする。だが、一つ障害がある。バスが時速 80 キロメートル以下に減速すると爆発するように、爆弾がプログラミングされている。そこで、ジャックと、サンドラ・ブロック演じる乗客のアニー・ポーターは、バスでロサンゼルス市街を時速 80 キロメートル以上で突っ走らなければならない。さもないと、二人やその周囲のものはすべて爆弾によって火の玉になってしまう。

「中国はそのバスだ」と、チャンダはいう。

8 . 「年 8 パーセント以上で成長しないと、中国は爆発する」チャンダは説明する。「それ以下だと、失業が増え、不満がつもり、国民が噴火を起こす」毛沢東時代末期以来、中国政府が国民に提示した統治上の黙契は、ずっとはっきりしていた。つまり、「われわれは共産主義から GDP 主義に移行しつつある。GDP 主義とはこうだ——共産党が統治し、おまえたち人民は栄える。われわれの統治を受け入れろ。おまえたちのさらなる繁栄を、われわれが保証する」というものだ。GDP の着実な上昇がつかないと——中国というバスが時速 80 キロメートルで走りつづけないと——この黙契が崩れてしまう。

9 . この 20 年、中国を何度も訪れてわかったことだが、これは依然として統治の黙契ではあるものの、たいへん抜け目のない中国の指導者たちは、温暖化、フラット化、人口過密化する世界で

それを統治の黙契として維持することは——読めないような細かい字で免責事項を書き込まないかぎり——無理だということを悟りはじめています。そして、その免責事項とはつぎのようなものだ。「この統治の黙契は、中国がまもなくみずから課さなければならない制約に従って変更されうる。なぜなら、石炭中心の中国の成長は、環境、エネルギー、生物の多様性に著しい影響をあたえているから、これを野放しにすれば、中国の環境は取り返しがつかないほどに汚され、経済が衰退し、国際社会でのけ者になって、中国は滅亡するおそれがある。国際社会、とりわけアメリカが、今後数年のあいだに炭素税を実施し、また母なる自然が独自のやり方でもっと厳しい罰を加えるようなら、中国は安く汚い燃料を捨てざるをえなくなる。さもないと、中国製品はボイコットされるだろう。ゆえに共産党は、経済をクリーンにするという大義の名において、経済成長を鈍化させる権利を持つものとする」

10. 中国の指導者は、この免責事項を自分たちや国民に懇切丁寧に読み聞かせることはしないかもしれないが、それが進むべき道を示す理にかなった運営方針であり、すでにその方向へ進みはじめています。したがって、こうしたことを重ね合わせると、中国の指導者たちが、世界という舞台でいまだかつて演じられたことのない大胆な政治的綱渡りに踏み切ったと見るのが、当然の帰結だろう。チャンダのいいまわしを借りれば、「中国の指導者たちは、中国というバスのエンジンを、燃費が悪く汚染物質を放出するものから、きわめて効率のいいハイブリッドに換装しようとしている——しかし、バスを時速 80 キロメートルで走らせながら、それをやらなければならない」のである。

11. これは地球最大のショーになるだろう。

中国でくりひろげられているドラマに迫真性があるのは、30 年前に共産主義を GDP 主義に置き換えた共産党が、いまや GDP 主義を“グリーン GDP 主義”に置き換えようとしているからだ。また、このショーの最大の魅力は、中国指導部が幾多の試みと失敗の末に、これをやろうと決意したところにある。バスの運転手が、うしろをふりむいて、エンジンを換えないといけないんです、と乗客にいう——具体的なやり方は説明しない——そして、乗客数人がエンジンルームに行き、いじくりはじめるのを、運転手は許している。自力ではエンジンを交換できないことを、中国指導部は承知しているのだ。

P197 ~ 201

[コメント]

果たして本当だろうかというのが私の率直な疑問だ。世界(地球)は中国と運命共同体にあるというフリードマン氏の指摘は適確だ。そうであるなら、世界の存立、安全保障のために地球全体をどうしなければならないか、中国が何をせねばならないか、何をしてはならないかを本気で議論すべきではないのか。

- 2010 年 9 月 14 日 林 明夫記 -